# 「明の時代」へ重大な時

黎明
発行所
京都市左京区吉田神楽岡町3
有限会社黎明社
郵便番号606
電(771)2022番

明主様御真筆

前号（黎25）では、明主様が、昭和二十六年五月二十二日、日比谷公会堂に於て、世間一般の方々を対象に、自ら直接に御講演下さいました御教えの前半をお取次ぎさせていただきました。今回はその後半の抜粋をやはり活字を通じてお取次ぎさせていただきたいと存じます。前回にも申上げましたように、皆様が御録音により生の御声を通じて拝聴させていただかれてこそ始めて、明主様の御心に直接ふれさせていただくことがお出来になるわけであります。従ってあくまでそのことを前提としてお取次ぎさせていただくわけであります。殊に、御録音が以前のレコードであるためにやや鮮明でない部分がありましたり、人間の耳の不確かさのために筆記に誤りが予想されますことを深くお詫び申上げます。

明主様は、後半では主に「最後の審判」についてお説き下さって居ります。

『処で、もう一つ私が言いたい事は、キリスト教にある最後の審判ですね。御釈迦様が言う仏滅の世と、―これは色々な教祖、開祖が言われてますけれど、私はこの二大聖者の事だけに留めておきますけれども、これは最後の審判と言うのはどういうことかと言うと、ただ最後の審判だけでは何か神様がこう……と思うんですが、地獄でなくこの現世に閻魔様が出て来て裁くんじゃないかというように思うのですが、そうじゃない。これはちょっと、未信者の人には、分りにくいのですけれど、霊界と言うものがあるのですね、霊界……。この我々が物質をさわったり、見えたりするのはこれは物質界、現界……それからその奥に霊界がある。その中間に空気界がある。空気界までは分っているけれど、霊界は分らなかった。丁度さっきの野蛮時代から文化時代、文明時代とこういうような順序です。この三段階のうちのその物質界、それから空気界、霊界と、この三段階になってるんです。処が世界の循環率ですね、循環率によって明暗ですね、暗くなったり明るくなったり。これが一昼夜の二十四時間にこれがあるのではなくて一年にも明暗がある。一年の明暗と言うものは、仮に冬は暗いと言う事になると夏は明るいと、こうなるんですね。太陽の光線から言っても夏が一番強烈なのです。冬は一番薄いのだからして、これも明暗になっている。これが又、十年にも明暗があり、百年にも明暗がある。歴史上ですね平和時代もあるし、又暗黒時代もあるのは、やはりそう言った一つのリズムなのです。

それから今度は千年にも万年にもある。それで今迄はこの暗の時代であった。暗い時代だった。今度明るい時代になるのです。明の時代。そこでこのさっき文明時代、文明の明の字を書く、明るいと言う字、化ではバケですから駄目です。そうすると明るい時代になると、そうすると、今までの暗い時代のものが整理される。そして私の方で言うと夜の世界と昼の世界と、夜の文化と昼の文化と、こう言って居りますがね。そうして夜の文化でいらないものが沢山出来てくる、なくて自然に浄化すべき、汚ないものが綺麗にされなければならない。そうすると魂の汚ない人は、霊界が明るくなるにつれて掃除をされる、それが苦しみです。で、病気の原理でもそういう事に説いてあります。それによると病気と言うのがよく分るのです。

今迄は霊と言う事を知らなかった。無視した。さっき徳川さんの言われたように魂です。魂というものの働きというものは、大きなものです。大変なものです。私は、昨日ですね、一年ぶり位で来た人がある。処が一年ぶり位で一昨日その人の事をひょっと頭に浮かんで、今どうしているのだろうと思った処が、昨日来たので「ああ霊が先に来てるんだな」とこう思った。と言うのはこっちで、こう徳川さんが松竝と言う人を、一生懸命に書いていると、いう―思っているとその想念と言うものが向うに行くのです。その昼間になると電灯やいろんなそう言うものがいらなくなる、と言うように、夜の時代の此処でいらなくなることが滅びると言うのです。

審判ということは夜昼を分けるのです。いらないものは先ずしまうか、或いは毀すか。で、これから明るいものを段々造って行くと、こう言う具合です。そうすると、今の霊界が明るくなると、どういう事になるかと言うと、人間ですね、人間と言うものはやはり体とそれから霊、霊とその間に空気に相応すべき水分というものがある、水蒸気これが人間の体に非常にある。そういう三段階になっている内の人間の霊ですね。魂と言っている。それが霊界に属している。霊界が明るくなると、それの明るさに相応しない魂の人はですね、どうしてもその相応するようにその曇りを取られるのです。取られると言って何も強引にとる訳じゃ人の―。行ってその人の体へ入る。頭へ行って、此処までくるとですね、ふッと浮かぶのです。

逢おうと言って、来るようなものです。要するに霊線と言ってそういう具合に交通するのです。これはこの霊線の何ですね。働きなんだけれど。恋愛問題になんかに解釈すると非常に面白いんです。けど今恋愛問題の目的じゃないですからね。これは信仰に入ったらそう言う事も分ってきます。（中略）そういう事が分ると、大いにそういう悲劇や悪い社会悪なんかがなくなるが、それはそれだけにしておいて……。

今言ったような工合にですね霊です。霊の曇りを明るさに相応するようになる時に、病気位で済めばいいけれども、そうでなくてもっと強くくる、するともう病気なんかに堪えられないで、その人は死んでしまう。病気と言うものは、少しずつ来るから病気でね、あれでいいのですがね。あれで一ぺんに来たら倒れてしまう。最後の審判と言うのはそれなのです。そこで段々段々この霊界が明るくなるにつれて、そして一ぺんに、やられることになると、その為に命を失うことになる。それが大量になる。大量になっては可哀想だからと言うので、この事を知らせると、知らせて助けなければならないと言うのが、神様の御意志であるので、私は神様に、それを命ぜられた。そして、こうしてお知らせするわけなのです。そうしておいて、私はですね。つまり釈迦とか、キリストとか言う人が。天国は近づけり。と、今にいい世の中が来ると言う予言をされた。予言をされたそれをですね、キリストや釈迦は予言者で、私は実行者なのです。それを実行すると、本当にこの世界をして、病貧争絶無の地上天国を造ると、造ると言う事を神様から命ぜられてるんです。

その代り私が作るのではないから、決して骨が折れる事はない。万事神様が御膳立しますから、ただその形に表われたものだけをですね、やればいいのです。これは、非常に楽なんです。しかし楽だと言っても、責任は重いのです。まあ、恐らく人類肇まって以来、私位大きな責任を負わされたものはないでしょう。そうするとそれによってですね、偉い人達の予言があって来るのです。ですから私の方で言うには、もしキリストや釈迦が言った予言が、実際実現性がないとしたら、これは予言じゃなくて虚言だっていうんです。いわゆる虚言とは嘘吐きです。あんな偉い人が嘘を吐くと言う筈はないんです。いずれは誰かが、実現させるものが出なければならぬ、というような意味で、それでその担当者として私が選ばれたと、こういう訳なのです。私はこういう事を、こんな大きな事を言うって事は、実際つらいのです。あんまり大それた事のようで、いいにくいのですから今迄言わなかったのです。併し段々段々今言う夜から昼間になる時代が迫って来ましたから、それで人を救うには早く、大

## 明主様の御教えについて

### 本教について（四）

会長 多田光行

（その18）

以下2面へ続く

1面からの続き

勢の人に、それを耳に入れなければいかんと言う訳で、今日初めて大勢の方の前で喋るのです。

さっきノアの洪水の事をちょっと鈴木さんが言われましたが、あれもまあよく似ているのです。ノアの兄弟というのがありますね、兄弟がやはり神憑りになって神様から知らせられた。

「もうじき大洪水がある、人類の大半はそれに捲込まれてしまう、だから一人でも多く助けろ」と言うのでノアの兄弟が非常に怒鳴った。知らした処が中々信ずる人がなかった。それで信じてた人はたった六人なのです。ですからノアの兄弟二人と合わせて八人です。八人だけが信じた訳です。そうしてどうすればよいかと言うと、箱舟を作れとこう言うのです。ノアの箱舟と言うのは、丁度銀杏の実の形をしたものです。というのはこう言うふうになるのです。だから洪水の時もこの上に、猛獣だとか、大蛇とかいうのが上って来る。

その危険を救うために考えた。箱舟を作ってそして待っていた処が、あれは、四十日雨が降ったと言う説と、百日雨が降ったと言う説がありますが、これはどっちみち幾日も続いて降ったのです。そして段々段々その水嵩が増して、そして洪水になったのです。そうすると箱舟に乗ったものだけが助かったけれど、あとの普通の舟に乗った人や、山の上へ上った人は、みんな、猛獣や、うわばみやそういうものが上って来て食殺してしまった。それで助かったのは、その八人だけが助かった。その子孫が今日の白人だと言うことになっていますが、これは大体間違っていないと思うのです。何故ならば、日本でも伊弉諾、伊弉冉尊ですね。この二柱の神様は、天の浮橋の上で、そうして剣をこの泡みたいなのをかきまわして、堪こおろこおろとかき廻すと、そこへ島生み国生みっていって、島や国が生まれたと、こう言う事になっているのです。あれは洪水に違いない。神道の方で言うと、潮干の業と潮満の業と両方あると言うことになっています。潮干の業と言うのは、水を干やす訳です。ですから伊弉諾尊は潮干の業をなす。そこで干した為に島生み国生みと言うのは、あれは洪水の水を捨てたのです。今迄水底にあったのが現われた—こういう事だったのです。

それがノアの洪水の時だと思うのです。そう言うような工合で、今度は、キリストの黙示録や色々ありますがね、ヨハネは水の洗礼をすると、キリストは火の洗礼をすると言う事なのです。ヨハネの水の洗礼はもうノアの洪水ですんだのです。今度は火の洗礼となると、これはやはり大変な、大きなことなんです。

火の洗礼に就いては、色々の又、意味があるのですが、大分時間が来ましたから、これだけにしておきます。』

# 明主様の御声から"熱風"

## 経綸加速の年

東京支部長　長島　すず子

救い主、明主様の第九十二回目の御生誕のみ教を病床の中に織んでおたまわりしていただきました。

誠に有難い様でございます。併せて新年の昭和五十年をこの様なこととは深い御守護の賜物のようにしみじみ感じております。

この激動変乱の世に、風説等に つつかなく御様をお祈りいただきましたことに厚く感謝申し上げ、口ひたすら救い主・明主様の広大なる御恵の賜物のみ教を拝しまして、昭和四十九年は暫し気もなく立ち去って行きました。至らぬ所深い私共は、二度と再び戻らぬこの四十九年の御守護に何時の日に御報いさせていただけることでありましょう。日々刻刻が過して行くのに気付かず、先へ先へと過してしまっています。

「今日は」「明日は」と言っているうちに、「時」は絶みなく流れて一年は早く間にまた過ぎて行くことでありましょう。

神様の御経綸は、私共の目には見えませんが、大変厳しさを加えてきておりますので、特に最近のお光は、ことのほか強いたようです。近頃参拝者の方にも神々と天奇瑞を見せられております。と申しますことは、先日支部御年越祭の時のことでした。祭典は夜分のことで、寒さは厳しく、暖房を使用いたしますとは当然ですが、御参拝者が多くなりますと直然と消火することになります。今回の御祭は大変な御守護のもと夜分とは言いながら、盛大で有難いことでございました。会社や卓退して参拝された方や遠方の方は休日を取って祭典準備の御用に、そして書月と言うことで世界の救い主・明主様の御生誕を寿き奉り、そしてお光をいただく喜びの人々で会場は一杯でございました。みタ祭も終りなく仕えさせていただき、尊い明主様の御光霊を拝聴させていただいております時御言葉も清々しく響き、一堂水を打った如くシーンとした静けさの最中（さながらに、突然会場の中央辺、御光霊の流れます処あたりにわかに「熱い」熱風が「グン、グン」と押したような感じを受け、程なく汗がジリジリと流れ出て、玉の汗が老若男女の顔や、頭に流れて側にいた人達もびっくりする程で、ハンカチや、手拭いなどを出して拭さわぎでした。ひどく熱いと言うことで、「窓を開けて下さい」と声を掛ける方や、「熱い熱い」と言う方が多く出て、それ程度々後の方にも波及して行き、時ならぬ"熱風の神風"騒きでございました。このようなことは今迄嘗ては初めてのことで、不思議な現象に瞬間の出来事に驚きました。その左右の人々は気付でもなく、後は別段変わった様子も無く過ぎ、ある人は「お光をいただいて感覚気味をよくしていただきました。ありがとうございました」と感謝の中に静けさを良し、御光話を拝聴させいただきました。本日の御生誕祭の御神霊の何と強いみ光でありましたことなん、衝の会話の花を咲かせたお祭りでした。

今迄でも御光話を聴きせていただいた方も数々ありますが、今日のようなすばらしいお光は一寸感じられませんでした。かって、耳の浄化の方が初めて拝聴されました時、御光話中「大変楽になりました」「有難うございます」と突然申されて、こちらは「ハア？」「ハー」と驚き聞き返したこともありました。また長い間薬を使っていた方で、入信後御光話をいただいての帰り道で、耳の中から嗚い嗚いタイヤの様な黄色の固った物がコロリと出たと申され、きっと驚かしたない、御浄めをいただいて感謝された方もありました。

## 使命の達成へ実践あるのみ

御光が強くなりますと、霊眼が段々はっきり立分けられて一段と浄化が続くなると御教えいただいて言って驚きますが、只お光が強いと言って驚いたり、有難い、だけでは切角明主様がこの世に御肉体を持って高い神界から御降臨あそばされたとの意味が分らないことであります。私共は常々御神書を通し会長先生より「最後の審判（えり）を主として、お魂と申し上げている次第でございます。そのためには、私共は一筋に、明主様の御神書を深く拝読し、真の文明への切り替えの趨勢に邁進し、先生の御指導を実践に移し、実行あるのみと存じます。特に本年は御神業の大詰めと申すような大切な時、私共の力では御献金を一人残らずお所のいただけますように、私自身もその努力におたらぬよう祈り奉仕するものでございます。

併かに明主様を拝し奉って、より多く、お力と、智恵をお与え賜り、年の始めに、今年の計画を神様に願って悔いない御用のお許しいただきますならば最高の喜びと存じ、つたない御指導にさせていただきます。まことに有難うございました。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

## ごあいさつ　会長　多田光行

### ごあいさつ

御生誕祭おめでとうございます。

救い主・明主様が、加深き私共を永遠にお救い下さるためにお顕われ下さいましてより九十二回目の御生誕の日を迎えさせていただきました。

日々いただいて居ります数限りない御恵み・御守護に対しまして心より感謝のお祈りを捧げさせていただきますと共に、御神恩に何のお報いも出来て居りませんことを深くお詫び申上げます。

本年は恐らく色々な意味で非常に重要な年であると存じます。黎明教会に縁あって結ばれて居られますすべての方々が、神様よりお許しいただかれました使命を誤まりなく十分に果させていただかれますよう心よりお祈り申上げます。私自身、今までの償いを少しでもさせていただくお許しがもしいただけますならば、今後全身全霊をうちこませていただくことをお誓い申上げます。

また、私の至らぬために日頃御迷惑をおかけしてきた多くの方々にお詫び申上げますと共に、常に皆様方より暖かい御協力を賜わって居りますことを厚く御礼申上げたいと思います。

今後、私共はお互いに手をとりあって助けあいながら、明主様の大愛の御心により私共にお許し下さいました御用の一つ一つを、誤りなく精一杯果させていただけますよう、ただひたすらに神様に御守護をお願い申上げるのみでございます。

## 新しい年へスタート

御生誕祭にお参りされる信者たち

新年祭を終え、新しい年の御教えお伝えに教会を出発される信者たち

ら伏して、御高慶の深さに涙ら存じ上げております。

月二日に守唱もなく御守護をいただいている私共は、その御恵の万分の一の御恩の御用もできぬ間に、一年はアッと言う間に過ぎ

# 御生誕祭 新年祭 迎えて

## 人類愛の御心を心として

辰巳健二

御生誕祭を心から寿ぎ奉り、また、昭和五十年の新春をお祝い申し上げます。

明主様の御生誕、御出現の意義をお説き下さいました御教えとして、左の御教えは、今日まで幾度となく研鑽の機会を与えていただいたことがございます。

『尊き天の降来って絶対力を与えられ、其力使による人類救済の大使命を帯びて出顕したのが私である以上、私によって真理の顕現を開き、人類最後の救ひを実行すると共に、新文明世界設計図の指導的役割をも併せ行なうのであるから、実に全人類に対する救ひ前絶後の一大福音である。』

これは、『既成文化の欠点』という御論文の一節ですが、この短い御文章の中に主の大神様の限り知れず深い御経綸の中における、明主様御出顕の意義、明主様の御神業の根本、全面的問題に対されてきておられると思います。この一節を拝誦させていただき手頃のに、思い知れば感動を覚えざるを得ません。

『全人類に対する救ひ前絶後の一大福音』を知らせいただいた感謝に心は躍り、しかし同時に、私は世界のほとんどの人がこの福音に接していないことを考えれば私達の責任の重大なことを改めて痛感し、今日まで怠りなきを省みては申訳なきに胸が締めつけられるような思いがいたします。

右の御教えを注意して拝誦させていただきますと、その中の行の中に、『人類』という言葉を実に三度もお使いになっておられることに気がつきます。

この事は明主様が如何に強く世界人類の救済を御念願においておられたかを明らかにお示し下さっておられる、と受け取らせていただけるのではないかと思います。

『尊き天の降来って絶対力を与えられ、其力使による人類救済の大使命を帯びて出顕したのが私である以上、私によって真理の顕現を開き、人類最後の救ひを実行すると共に、新文明世界設計図の指導的役割をも併せ行なうのであるから、実に全人類に対する救ひ前絶後の一大福音である。』

これは、『既成文化の欠点』という御論文の一節ですが、この短い御文章の中に主の大神様の限り知れず深い御経綸の中における、明主様御出顕の意義、明主様の御神業の根本、全面的問題に対されてきておられると思います。この一節を拝誦させていただき手頃のに、思い知れば感動を覚えざるを得ません。

『全人類に対する救ひ前絶後の一大福音』を知らせいただいた感謝に心は躍り、しかし同時に、私は世界のほとんどの人がこの福音に接していないことを考えれば私達の責任の重大なことを改めて痛感し、今日まで怠りなきを省みては申訳なきに胸が締めつけられるような思いがいたします。

右の御教えを注意して拝誦させていただきますと、その中の行の中に、『人類』という言葉を実に三度もお使いになっておられることに気がつきます。

この事は明主様が如何に強く世界人類の救済を御念願においておられたかを明らかにお示し下さっておられる、と受け取らせていただけるのではないかと思います。

明主様はかつて、ある人が自己に強い問題の御教示をお願い申し上げたに対し、

『私はそれ、世界人類救済の大業の為、極度に時間を有意義に利用しているから、他つきの問題を、西一生をつらぬかせていただきたいと思っているのである。それを察したまへ』と御教示されて、その人の考えが極めて高度であることを知ると共に、明主様はいつ、ある人が自己に強い問題の御教示をお願い申し上げたに対し、

『私はそれ、世界人類救済の大業の為、極度に時間を有意義に利用しているから、他つきの問題を、西一生をつらぬかせていただきたいと思っているのである。それを察したまへ』と御教示されて、その人の考えが極めて高度であることを知ると共に、明主様はいつ、ある人が自己に強い問題の御教示をお願い申し上げたに対し、

『驚くべき治病の実績が、此地球上に出現したに拘はらず、全人類は救う力のない医学を無上のものと過信し、病苦に悩み長く生きられる生命を中途に挫折して了ふ其無智悲惨なる現状は、到底黙視出来ないのである。』

これは『地上天国』という御教えの中の一節であります。

『到底黙視出来ないのである』というお言葉の奥に思わせていただくことのできます。

明主様の世界人類に対する熱い、大きな、しかも厳しい御愛情。その大慈愛の御心の一端を私共の心としていなければならぬ。

『到底黙視出来ないのである』というお言葉の奥に思わせていただくことのできます。

明主様の世界人類に対する熱い、大きな、しかも厳しい御愛情。その大慈愛の御心の一端を私共の心としていなければならぬ。

『驚くべき治病の実績が、此地球上に出現したに拘はらず、全人類は救う力のない医学を無上のものと過信し、病苦に悩み長く生きられる生命を中途に挫折して了ふ其無智悲惨なる現状は、到底黙視出来ないのである。』

これは『地上天国』という御教えの中の一節であります。

『到底黙視出来ないのである』というお言葉の奥に思わせていただくことのできます。

明主様はかつて、ある人が自己に強い問題の御教示をお願い申し上げたに対し、

『私はそれ、世界人類救済の大業の為、極度に時間を有意義に利用しているから、他つきの問題を、西一生をつらぬかせていただきたいと思っているのである。それを察したまへ』と御教示されて、その人の考えが極めて高度であることを知ると共に、明主様はいつ、ある人が自己に強い問題の御教示をお願い申し上げたに対し、

『私はそれ、世界人類救済の大業の為、極度に時間を有意義に利用しているから、他つきの問題を、西一生をつらぬかせていただきたいと思っているのである。それを察したまへ』と御教示されて、その人の考えが極めて高度であることを知ると共に、明主様はいつ、ある人が自己に強い問題の御教示をお願い申し上げたに対し、

『驚くべき治病の実績が、此地球上に出現したに拘はらず、全人類は救う力のない医学を無上のものと過信し、病苦に悩み長く生きられる生命を中途に挫折して了ふ其無智悲惨なる現状は、到底黙視出来ないのである。』

これは『地上天国』という御教えの中の一節であります。

『到底黙視出来ないのである』というお言葉の奥に思わせていただくことのできます。

明主様はかつて

# 四、自然農法の普及について

## ①普及の意義

教2（26・9・24）

自然農法で、五年続けたら、五割増産は大丈夫です。今年は、六割増産たったと言うんですね。そのうち、七割増産たったと言うんですね。それが五割増産たった九千六百万石になる。人口は八千万人ですから、一千万石以上余る訳ですから、それを輸出するか、他の資料に使えば良い。大変なのです。それで肥料は要らないし、虫害もずっと少なくなるし、風水の被害もずっと減ります。そういう事を、分って貰う努力をしていない事は、実に間違っている。ちゃんと、神様は日本を救うべく教えられたのだからそれを力の限り広めて、先ず日本を救わなければならない。然も農民の現在は一日本の人口の七・八割は農民ですから一その大部分の農民が、貧困非常に金に困っている。この間も、罰金一億幣ですね。その分布状態の調査をみると、今農民税は五番目かです。終戦後は二番目にあったが、今は反って酒工業の方がずっと良くなっている。だから、金税金に苦しんでいる訳ですね。そう云う意味において、一番救うべき食糧級は、農民ですね。

教2（26・9・24）

食糧増産ですね。が、食えを無くする一番の原因なんです。

教2（26・9・26）

そこで、農民の病があだかくなれば、購買力がつくから、商工業も盛んになる。それからもう一つは農産物が増えれば、日本が外国から買わなくても済むから、日本全体の病がよくなる。

教30（29・1・26）

自然栽培が国家の問題になるという事になって、始めて、ではやっぱりどうやら、じっとしては居られない。大いに教世教、岡田茂吉という人間を研究しなければならない、という事になるわけです。

## ②普及の時期

教30（29・1・16）

以前と違って一人も減産がないのです。少ないのでまず一割、多いので五割です。これは官界が違って来たせいもあるのですが、実に自然栽培が普及されるような時期にもなって来たわけです。

教30（29・1・15）

農業の方が先に分るわけです。そうして医学の方はその次という順序になったわけです。

教30（29・1・16）

教えるよりか、実際に良く出来れば"不思議だ、どういうわけだろう"という事になってから、その理窟やいきは嘘で分ります。さもなければ、なかなか簡単には分りません。

## ③普及の方法

教19（28・2・26）

自然栽培というものは、ひとり日本ばかりでなく、他国の間違った事も教う事になるのです。そうして、急速に日本全国を自然耕作にしてしまうという事です。これは、いう様なわけで、今度はできるだけ早く日本を救わなければならないというので、自然農法普及会という会を作ろうと思っているのです。それは大体一村一支部という組織です。調べてみると、日本の村の数は一万幾らあるのです。その中でいろんな事情から、支部を作ってもいい村が一万はあるわけです。それで大体一万を目標にしてしまうという事です。これは割合早く行きます。

教2（26・9・23）

色々な理論や実際報告とかを一つの本に拵えて、之を農業関係者に、政府は勿論ですが、各農会ですね。全国のそれに配ろうと思っています。それで、一大輿論ですね。農業調査を問き、それを記して、早く分る様と言う当然な反響があるだろうと思います。そうかと言って、直ぐ何っと言う事はないでしょうが、之が第一期として一つガンと頭をやられる様なものですから、忘れる事はないです。そのうちに実際方面ですね一各農村で事実を見せると言う事で、ああ之だなと言う事になるから、段々そういった一つの機運が起って来る訳ですね。それかから、こうしておいたために、今後農村で自然栽培も、あんまり冷遇する事は、余程覚悟されるだろうと思います。まあ、やり良くなる訳ですね。

教25（28・8・6）

丁度冷雲と同じで、冷雲も年々治りが早くなって、治る人はドンドン治り、死ぬ人は早く死ぬというようになってきます。ですから普及がはっきりさせるという事になるのです。そこで以前は肥料の害をそれほど思っていなかった、肥料害というのがますます著しくなる様なものですから、忘れる事はないです。そのうちに実際方面で学の薬がなまずは固め方法だったのですが、その固め方法がだんだん効かなくなるのが早くなって、今度は固めようと言う傍から溶かすう方が早くなって、駄目になるというように、肥料の方もそういうようになって来つつあります。そこでどうしてもこちらの言うことを聞くようにしなければならないようになって来ます。それもそう長い事はありません。そうなったら、私が著わした本を見れば早く分るようになります。今私がいくら書いているのは、今信者の人に読ませるという事は一つの準備行為で、その時に一般人に読ませて目を覚させるという事が本当の狙いところになるわけです。

昭18（28・3・1）

自然農法とか無肥料栽培を農家にして街頭に出るという事は非常に良いと思います。（編者注　野菜果実の販売所についての御教え）

昭18（28・3・1）

その方が良ければ法律を出さなくても実行します。美味い物と不味い物があって、法律で美味い物を食えと言わなくても、実際に美味ければその方を食べます。

昭18（28・3・1）

信者にしなくても、早く増産する様にした方が国家のためになりますから、だからどうすれば、信者にならないまでも早く分るか、という事です。それを一々信者にしてやっていた日には、何時まかあるかわからないから、信者でなくても肥料をそやらなければ良いという事で、自然栽培を実行する人を増やすという事がいいのです。だから冷雲をして見せるという事は、それを妨害している事になるから神様の御守護がないのです。

昭18（28・3・1）

未信者の百姓で自然栽培をやるのが増えていって、いずれはやっぱり信者になります。

昭19（29・8・6）

それからつまり指導者の人たちで、まだ酒飲してない人が大分あるようです。飲酒の仕方がお国の為をおさとしになっておられ、冷雲という薬毒除法でお教えいただいている有難さ加護に心から感謝申し上げ、「冷雲」すぢに、おすがりいたしたのでございます。

食欲のなかったとき、馬瀬先生の教別のおかげからいて、自然農法によるお米を頂戴つづけていただきました。農業をつづけていただきました。また、これを頂戴に、約四十年間、喫いつづけて来た煙草も、少々たしなみ酒も一切やめましたことをつけ加えさせていただきます。

そうこうしているうちに、秋も深まり、柳の葉たちようろ、急速に、めきめきと体調がよくなり、体重も入院当初に比べ十キロ増え、五か月ぶりで会社へ出られるまでに快復、この一月、私も入院のお祈をいただきました。

その後は三か月ないし四か月毎の許可証明書による反応は極めて良好で、神様の御守護を深く感謝しています。

このことは明主様の偉大なお御恵みとして感謝いたしています。

昨年の今頃は病院のベッドで呻吟していた私が、この部屋から今日（八月十八日）神様の前で「おかげ」をご報告できますことは、一重に明主様のご加護によるものでございます。

私は、ただ有難く、ただ感謝して、ただ有難く、ただ感謝して、ただ有難く、ただ感謝して

# おかげ話

## 尿、滝のように排出

### 尿毒症で死の床の叔父 13年間"病気百貨店"の私 共に救われ、他人様の浄霊まで

藤井 光子

昭和二十九年頃、風邪が原因で腎臓病院に診てもらいましたところ、慢性腎臓炎と言われ青黄汁を多量に出していたが、三か年治療後やっと止まりましたが、婦人部が熱心に勧めて、物忘れはなはだしくて困るようになったとなりましたが、その後結婚して二回の妊娠と妊娠中毒症にかかり、三度目の時は青黄ホルモン剤と利尿剤だけは、横手を見ながらしずつ減らして行きましょうね。毎日御浄霊いたしますから」とおっしゃって下さいました。何時も丸山さんにお話しておりましたのですが、その度に「御浄霊して上げなさい」といわれますが、色々の事情があり、話が出ないでいたのですが、ある日布教所の叔父の病気は尿毒症で、お腹はパンパンに膨れ上り、むくみは首のところまで上っておりました。尿も便も出なくなり、もうどうしてよいか知らないと思われる程の大変な状態なのです

# おかげ話

## 医者もサジ投げた重症のルイレキ

# 浄霊2週間で床上げ

### 「明主様に素直」でトントン拍子　沢田はる

昭和二十年に右目にルイレキができまして、手術をいたしましたが、四十九年に右腹部上の方に同じような腫れ物ができました。七月には手術についてしまい状状は顔化の一歩をたどり、自信共にあきらめの心境でございました。医者もさじを投げていたようでございます。食欲は全然なくなり真剣は目腫しにきうって参ります、そのうち腹作が三日おきに起きるようになってきました。余りの苦しさに耐えかね、のどに指を突っ込んで、わずかに青い液を出すと少し楽になるものですから、なすすべもなくその繰り返しをいたし日々を過ごっておりました。

ちょうど、このような状態の時、妹の朝生とめがねがてから、この道を勧めてくれておりましたが、たまたま八月十八日の教会講座の帰りたといって立ち寄ってくれ、いままで耳にしたことなかった私でしたが、後光の思いで明主様のお教えに心より救われるのでございました。妹の通っている北白川布教所に連れていきました。早速その晩に病状が来て下さり、御浄霊をいただきました。どれくらいしていたのか、ほんのわずかな時間だと思います。胸がスーッとまいてきまして、ゲップが出ました。あれ程つかえて苦しかったのにどうしたのでしょう。神かかり食べたい気持になってきました。神様はっきりと慎御のわからない私に手にとるように教導を教えて下さいました。

一週間後、先生が来て下さったり、歩くのがやっと御浄霊をいただいておりました。その晩の夕食、口から青い水を一日間吐し出していたのに、汁を飲に、日日食欲が出てまいり、床の上に座ることができました。その後御教師の丸山さんが来て下さって続けて御浄霊をいただきました。長い間社会生活をしてきましたが、少しづつ歩けるようになってきました。

かったので不安でしたが、少しづつ歩けるようにしていただいて二週間程で床上げができるようになりたいただき、本当に嬉しうございました。

明主様の御守護に感謝させていただき、いままで教いの御導に背を向けておりましたことお詫びお祈りさせていただき、今後の御守護をお願いいたしました。お藤様で十月二五日には妹が付添って歩いて布教所まで行かせていただき、入信のお祈りをいただきました。余りトン、トンと早くよくしていただき喜んでおりましたら、先生から、一泊出ふは明主様の教えを通りられたから御心にかなって御守護さったのでしょうね」と言われました。その後、自己浄霊をさせていただき今では畑仕事もできるようにまでならせていただき、また自分がこのように救いたいたいお話を病気で苦しんでおられる方にお見せ

のおかげでみんなお助かることができたし、ほんとうにありがたいと思います。

でも、もし明主様が信者だけしか助けにならなかったらどんなにむごいことになっていたかわかりません。だから、これから何も知らない人に神様のことをお話ししたり、ずっとお守りを大事にしたいと思います。

明主様ありがとうございました。

（四十九年五月・小中学生勉強会で）

御のつと お取り次ぎさせてもらっております。本当にこの度は過大なる御守護を頂わり、心から厚くお礼申し上げます。

明主様まことに有難うございました。

## 一度の天津祝詞"奉唱"で

### 医者通い忘れ去った夫

野間はつ

昨年春四二十五日に入信させていただきまして、今までの経過と主人にいただきました御守護の御報告をさせていただきます。

三月初め頃から食事をする度に下腹に苦痛の方にしゃりの様なものを感じて、それが胸れてきまして、ひどい苦しさのあまり一日になってしまったのです。家族の者も心配して早く対医者さんへ通められ、何かの病院なものができているのだったらと心配になり、やすにでも病院へ行こうと思っておりましたら、隣の山本繁子（聖明23号2面）におかげの報告をさせていただきましたこと聞いたりまして、明浄霊で御守護の方が近いのですが、娘が毎日御時浄霊をいただいておりますので、一時間かかる司馬橋まで、一日おきとか二日あいたりでしたが御浄霊をいただきに通いました。五、六回御浄霊をいただきましたころより、しゃりが御浄霊の度に小さくなってわからなくなり、胸の痛みも少しづつ楽にしていたなることができました。そして無事に入信のお祈りをいただきました。

また主人が医学では動脈硬化といいことで、しょちゅう動悸がしんどくて辛くなるとし、胸が苦しくなるとかかりつけの医師でお薬をもらっていました。私もお守りいただく早速、主人に御浄霊をさせていただいたろと思いましたが、主人は長年の宗教教の熱心な信者ですので、「酒飲しておろう」と申しますし、無理になやませないしと思っておりましたら、一週間も経たないうちに主人が気分がよくないので医者へ行くといい出しました。その日「今こそ御浄霊をさせていただかねば」と思って家人のお、少し楽になって休んでおられるので、少し楽になって休んでおられるので、夜分に行くと申します。その時、一度の天津祝詞"奉唱"で、医者通い忘れ去った夫になりました。長い間社会生活をしてきましたが、少しづつ歩けるようになってきました。

明主様ありがとうございました。

5面からの続き

## ◇…十一月選句…◇

月蝕して今宵師の供車駐すたたら踏み入る月舟に茶を喝ふ
月の舟なれぬ操師の行灯ゆる
駅待ちて師の手いさなふ月見舟
石鹸をおほふ椎の木実をこぼす
ふりむかぬ孫吃る日の赤トンボ
駅染たる下駄の片減りちちろ鳴く
低雨を降りて無月の砂をふむ
神死の雨後の地野の水引草
朋ちちろ我想念をみだす無し
腐敗れの西瓜残れる農作畑
森閑をのこし蕎地草みな抜きし
婚の荷や埃しずめの菊の雨
婚茄子にそろ歩きの泉能り
大家族鯖ひ茶の間に栗を食む
朝霧の残りし砂に児とはげむ
母にとて子は買い求たる栗赤飯
秋日落ち花時計のまわり居り
野鳥来て柿の実落としゆきし庭
落葉焚くけむりの匂ひ隣こしに
断崖のわづかな畑み野菊咲く
無肥の梨まづ神前に奉る
夕鶏の木祖川ほとり鶏鳴いそぐ
畦上の木屋の香に遊る
吹く風に身をよじらせる花すすき
故郷の祖母の手にせしいちじく熟れ
木屋の香に久しぶり庶揃除
鶏たちて声の鶏の鶏消えてゆく
池の面に頭を下げ映り芦の穂
秋の空古墓の上に広がりぬ
読みかけの書物引き出す夜長雲梨
せせらぎに止まり流れ色カエデ
夕鶏の仇につのためた北山路
秋時雨幸もさきさに通り過ぐ
格子戸を洗しもべせい匂ひくる
街灯消えて降しく夜長道
星空に蟋蟀の声染み渡る
声上げて団栗拾い数え合う
庶栗の手作り栗子に海茶点
今出でし名月知らず声高く
金沸き母と最後の秋の蝶
蕭草の茂れる径や人まれに
市場へのこ道近径ねじやらし
月の晴曇つも高く蒸の宿
自然田を刈る鎌を持つ老婆多み
久方の故郷の墓の曼珠沙華
我庭の雲雀子うれし茶に誘ふ
それぞれに月おさ見る人あまた
秋の雨樹下まだ濡らすほどなく
山紅葉サイクリングに鳥鳴路を
明日香村ふしろの山の初紅葉
松茸の出し店のさきゆく人ら
かきを食む友の想いは故郷へ
駅刈りに坪する農夫はずむ鎌
好天に巡くり合はせて芋掘りに
松茸のあまり高値に買ひ迷ふ
雨上がる園の庭へ遊り遊りす
黒とんぼ木洩日の庭低く飛ぶ
剣山に初めて生けしほとと冬
小春日の中ゆくりて海青し
冬晩し日回港に旅終えて
花活けのコスモス揺れし午後の風
紅葉つらぬきて子の髪飾り
庶間に残れる虫をふと耳に
通学の早朝の道霜白く
白息の水面に映る嵐山
しきりなる落ち葉に午後をやすらぎて
昼休み蕎葉拾ひの園児遊
秋晴れに ハムつきつきと生み出され
紅葉の映りし池の燃ゆること
行秋の鬱きれきれの丘の上
柿照葉風国の友に押し葉して
朝紅葉鳥声響き山は遊む
雑飾りて鳥に手引かれ七五三
百舌鳥の声聞かれ村の灯をともす
落日に木の葉舞ひ立ち眼山
尾川　三郎　霧一字砂に掛けてより茶事用意
投ついで待つに友垣遊きこと
柿紅葉四五枚拾ひ箱に立す
方言の人々多し紅葉狩
飲声にボールを投げて刈田の子
寂しげな石庭に舞う冬の蝶
長沢　雅子　刈田の子
山田　佳代
太田　辰夫
長谷川知子
山田　薫
長谷川万佐子
長森田美子
尾川　三郎
長森　正明
崩田　亨
星野　光子
崩田　保
馬瀬　尚毅
長沢　雅子
佐藤　美代
小林加代子
森本　政司
佐藤　美代
小林加代子
崩田　保
星野　光子
長森　正明
星野美也子
星野　治代
崩田　亨
長森田美子
尾川　三郎
長谷川万佐子
岩本　光子
長谷川万佐子
丸山　茂子
西村　直美
山田　薫
星野　光子
星野　治代
崩田　亨
大嶋　光照
上田　修一
小林加代子
長森　正明
長沢　光義
大嶋　上志
岡本　弘
加畑　喜子
上田小夜子
磯野　初枝
馬司島　章
上田小夜子
加畑　喜子
岡本　弘
馬司島　章
上田小夜子
磯野　初枝
長沢　雅子
山田　佳代
太田　辰夫
長谷川知子
長谷川万佐子
山田　薫
伊吹　雅美
折井　美都
田原　きぬ
多田　照江
折井　美都
長沢　雅子
田原　きぬ
川中　鳳鏡
多田　照江
森本　繁子
川中　鳳鏡
田原　きぬ
多田　照江
折井　美都
川中　新二
森本　繁子
川中　新二
岩本　光子
長谷川万佐子
丸山　茂子
西村　直美
山田　薫
星野　光子
星野　治代
崩田　亨
長森　正明
長沢　光義
大嶋　上志
岡本　弘
加畑　喜子
上田小夜子
磯野　初枝
馬司島　章
上田小夜子
加畑　喜子
岡本　弘
馬司島　章
上田小夜子
磯野　初枝
大嶋　光照
上田　修一
小林加代子
佐藤　美代
崩田　亨
長森　正明
星野美也子
星野　治代
長沢　雅子
崩田　保
馬瀬　尚毅
長森田美子
尾川　三郎
長谷川万佐子
山田　薫
星野　光子
星野　治代
崩田　亨
大嶋　光照
上田　修一
小林加代子
磯野　初枝
馬司島　章
上田小夜子
加畑　喜子
岡本　弘

## れいめい俳壇

### 丸山海道選

うらがれや一日一善守りそこで
逝く秋の句座鮫着馬たまわるる
夫笑に菊に水やる日課ふゆ
時雨月御教へ腐にいそしまん
障子貼る日に来客の多きこと
吉きのみ勝る来寺の花八ツ手
秋の蓑佐官のことに隅のにぶく
家逝る屋言葉し神無月
七五三結ふ袴のひも長し
いつしかに全客を染め山紅葉
子の帰り待ち佗ふ夕べ虎落笛
浄雲をこぼれ銀に秋深し
赤とんぼ ほう色持つ手をかすめゆく
野菊咲くガードレールのほとりにも
秋時雨たちまち過きてかさを閉づ
盲人も紅葉匂ひ三千院
我が屋の雲雀子うれし茶に誘ふ
つかの間の間ひなりし紅葉散る
たなびかれに紅葉なほ映え三千院
洗い上げし円き小鉢の白光り
冬の紅葉背景の列を止め
いつか雑を携らして過ぎし秋時雨
朝霧なる銀杏宮から降り来たる
待つ程に疲立つ柏付者をとる
好天に巡くり合はせて芋掘りに
松茸のあまり高値に買ひ迷ふ
雨上がる園の庭へ遊り遊りす
黒とんぼ木洩日の庭低く飛ぶ
剣山に初めて生けしほとと冬
小春日の中ゆくりて海青し
冬晩し日回港に旅終えて
花活けのコスモス揺れし午後の風
紅葉つらぬきて子の髪飾り
庶間に残れる虫をふと耳に
通学の早朝の道霜白く
白息の水面に映る嵐山
しきりなる落ち葉に午後をやすらぎて
昼休み蕎葉拾ひの園児遊
秋晴れに ハムつきつきと生み出され
紅葉の映りし池の燃ゆること
行秋の鬱きれきれの丘の上
柿照葉風国の友に押し葉して
朝紅葉鳥声響き山は遊む
雑飾りて鳥に手引かれ七五三
百舌鳥の声聞かれ村の灯をともす
落日に木の葉舞ひ立ち眼山
年の瀬や研究にややら急ぐ
批評の花ソ連原書の次個たまる
聞きなれし咳と足音ゆくるる
転勤の書を見送りて秋の暮れ
乳ふくむ児のぬくみあり霜の朝
児の物を干して ストーブあかあか
美しく遊い棒あげてすべる発売
祖母と孫熟柿に一つ口をつけ
終日を雨音に住み年賀書く
しまい畑者鶴と語り大根買う
児を叱り比叡下しに伏してゆく
コマ回し幼き頃の夢を追ふ
炭ついて在りし時を思い出す
早朝の霜に化粧の自然塑
自然塑鶴鳥として年賀状おこす
北山は先ぬ人間の化粧せる
ねんねこに包まれ母の背に乗入る
隠間風祖母にしかられ涙を出す
冬日用鍋にゆずましつつ
冬の雲の北ゾ方がせて通ふ孫
鮮色の青スチームをたは使ふ
黙々と茶川ブ たい喜寿祭
駅歩廊ゆつ人々の息白し
大空にたち高かいつつ冬木立
内孫に外孫つとひ菊日和
生垣の山茶花早も散りそめし
モミジ谷岩肌に散る水しぶき
杉の山見上げるホホに消える雪
神床に酒ひしつるもじ三一級す
松茸飯雷鳴につめ子を抱ぬ
朝焼けの空を上をし師走月
寒暖大輪の花風に咲く
バス降りて小春日の里卵む
朝霜木の実踊して枝揺り
初作りせし長崎酒冬日々優る
久方に寒ね母校銀杏落つ
甘酒にうつつた顔をながめ飲む
ほろ酔いの人もたれ来る師走バス
北風を黄き過ぎは朝の雨
神山に紅葉を散らす風つよし
自然塑美火鉢ん で一と息ひ
ポーナスを内ポケットに家路急ぐ
息白くマラソン非者独走す
飛鳥寺の古寺巡り秋日和
ストーブに手をかざし読む古日記
もち焼きつ テレビニュースに耳すます
初冬の茶店の酒盛り小倉山
南神寺蔦豆腐として歴史あり
久しぶり母と歩きて自転買う
雑炊くれて友と鍋よせ登校す
マフラーを長面にも巻き街へ出ず
バスの窓くもらせ白き息の歯つ
クリスマスネオン輝く大通り
スケートに胸はずませて友を待つ
初雪の降ると思しよりすぐ消える
しみじみと友と歩きて冬木立
年の瀬や研究にややら急ぐ
批評の花ソ連原書の次個たまる
聞きなれし咳と足音ゆくるる
転勤の書を見送りて秋の暮れ
乳ふくむ児のぬくみあり霜の朝
児の物を干して ストーブあかあか
美しく遊い棒あげてすべる発売
祖母と孫熟柿に一つ口をつけ
終日を雨音に住み年賀書く
しまい畑者鶴と語り大根買う
児を叱り比叡下しに伏してゆく
コマ回し幼き頃の夢を追ふ
炭ついて在りし時を思い出す
早朝の霜に化粧の自然塑
自然塑鶴鳥として年賀状おこす
北山は先ぬ人間の化粧せる
ねんねこに包まれ母の背に乗入る
隠間風祖母にしかられ涙を出す
冬日用鍋にゆずましつつ
冬の雲の北ゾ方がせて通ふ孫
鮮色の青スチームをたは使ふ
黙々と茶川ブ たい喜寿祭
駅歩廊ゆつ人々の息白し
大空にたち高かいつつ冬木立
内孫に外孫つとひ菊日和
生垣の山茶花早も散りそめし
モミジ谷岩肌に散る水しぶき
杉の山見上げるホホに消える雪
神床に酒ひしつるもじ三一級す
松茸飯雷鳴につめ子を抱ぬ
朝焼けの空を上をし師走月
寒暖大輪の花風に咲く
バス降りて小春日の里卵む
朝霜木の実踊して枝揺り
初作りせし長崎酒冬日々優る
久方に寒ね母校銀杏落つ
甘酒にうつつた顔をながめ飲む
ほろ酔いの人もたれ来る師走バス
北風を黄き過ぎは朝の雨
神山に紅葉を散らす風つよし
自然塑美火鉢ん で一と息ひ
ポーナスを内ポケットに家路急ぐ
息白くマラソン非者独走す
飛鳥寺の古寺巡り秋日和
ストーブに手をかざし読む古日記
もち焼きつ テレビニュースに耳すます
初冬の茶店の酒盛り小倉山
南神寺蔦豆腐として歴史あり
久しぶり母と歩きて自転買う
雑炊くれて友と鍋よせ登校す
マフラーを長面にも巻き街へ出ず
バスの窓くもらせ白き息の歯つ
クリスマスネオン輝く大通り
スケートに胸はずませて友を待つ
初雪の降ると思しよりすぐ消える
しみじみと友と歩きて冬木立
岡本　弘
加畑　喜子
上田小夜子
馬司島　章
磯野　初枝
大嶋　光照
上田　修一
小林加代子
佐藤　美代
崩田　保
長森　正明
大嶋　上志
長沢　光義
丸田　昌子
森本　政司
崩田　亨
長谷川万佐子
大嶋　健治
山田　薫
長沢　雅子
西村　直美
山田　佳代
崩田　保
長沢　光義
森本　政司
丸田　昌子